

## 神のみこころ

(金曜日——午前の第二の部)

### メッセージ 2

キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるという、  
神の大いなる高貴なみこころを知り、それにあずかる

聖書：エペソ 1:9-10. 4:15-16. コロサイ 2:19. I コリント 8:1 後半

- I. 「みこころの奥義をわたしたちに知らせてくださいました。これは、神がご自身の中で計画された彼の偉大な喜びによるもので、時代の満了時のエコノミー [経綸] へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです」——エペソ 1:9-10：
- A. 神が彼の願いにしたがって、ご自身の中で計画し、定めたエコノミー、あるいは経綸は、時代の満了時にキリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることで
- す。
- B. これが成し遂げられるのは、三一の神の満ちあふれる命の供給を命の要因として、召会のすべての肢体の中へと分与することを通してです。それは、彼らが死の状態から復活して、からだに結び付けられるためです。
- C. 「時代」はもろもろの時代を指しており、時代の満了時とは、すべての時代における神のすべての経綸が完了した後、新天新地が現れる時です：
1. 経綸は、分与するという行為あるいは過程であり、神がご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することを指しています。わたしたちは神の命と性質を伴う要素が、わたしたちの存在の中へと造り込まれることを必要とします。
  2. 全部で四つの時代があります。すなわち、罪（アダム）の時代、律法（モーセ）の時代、恵み（キリスト）の時代、王国（千年期）の時代です。
  3. 神はご自身を、アベル、エノス、エノク、ノア、アブラハム、イサク、そしてヨセフを伴うヤコブの中へと分与しました。神はさらに偉大な経綸をモーセに対して、そしてもちろん、主イエスに対して持っていました。
  4. この分与は新約の書簡において続きます。神の経綸は、使徒パウロの時よりもさらに偉大なものでさえあります。今日さらに深く、さらに高く、さらに広い神の恵みの経綸があります——参照、エペソ 3:2. I ペテロ 4:10。
  5. この経綸は、千年期を通して時代の満了時まで続きます。最終の、究極的に完成された経綸は、三一の神を新エルサレムの都全体の中へと分与することです——啓 22:1-2。
  6. わたしたちは今日、召会生活の中で、この究極的に完成された経綸の縮図を享受しています。わたしたちは召会生活の中で、生ける水としてのその霊を享受し、命の木としてのキリストを食べるとき、究極的に完成された経綸を待ち望みます。その経綸の中で、わたしたちは三一の神をもって完全に浸透されます——I コリント 10:3-4. 12:13. 啓 2:7. 22:2, 14. ヨハネ 6:57。
  7. 命がある所に、光もあります（1:4. 8:12）。新エルサレムは光で浸透されているので、太陽の光は必要ありません。三一の神の栄光が、わたしたちの照らし制御

する光となります (啓 21:23)。

8. 新エルサレムに夜はなく、死もなく、暗やみありません。むしろ、命と光があり、すべてを起き上がらせ良い秩序の中にあるようにし、こうして完全にキリストの中でかしらにつり上げられるようにします (24 節. エペソ 1:10)。
  9. わたしたちが新エルサレムにおいて、キリストの中で完全にかしらにつり上げられるとき、それは神の永遠の行政とエコノミーとなります。
- D. エペソ第 1 章 10 節ですべてのものをかしらにつり上げることは、3 節から 9 節で扱われたことの結果です。神がわたしたちを選び、あらかじめ定め、贖い、赦し、恵んだのは、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるという目的のためです。
- E. 22 節と 23 節がさらに啓示しているのは、このかしらにつり上げることが「召会に」であり、それはキリストのからだが、天使たちの反逆と人の反逆によって引き起こされた、死と暗やみの中にある宇宙的な崩壊の堆積から救い出されており、かしらとしてのキリストのすべてにあずかるということです。崩壊から救い出されることは、かしらにつり上げられることです。
- F. すべてがキリストの中でかしらにつり上げられるとき、完全な平安と調和 (イザヤ 2:4. 11:6. 55:12. 詩 96:12-13)、崩壊から完全に救い出されることがあります。これは万物の復興から始まります (使徒 3:21)。
- G. エゼキエル書第 37 章にある、死んでいて、枯れていて、散らされている骨が見せているのは、真の一の中にあるからだ、召会、神の家を持つ唯一の道が、命の道であるということです：
1. 息は、死んだ骨の中へと入るとき、彼らにとって命となりました。そして、彼らは生きて、一の中で立ち上がり、極めて大きな軍隊となりました。
  2. 死んだ骨が生かされて一となったのは、命を分与することと命において成長することの結果でした——1-14 節。
  3. わたしたちをかしらにつり上げる神の方法は、ご自身を命の要因としてわたしたちの中へと造り込み、わたしたちが起き上がってからだの中で互いに結び付くことです。
- II. キリストの中でかしらにつり上げられるために、わたしたちはすべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む必要があります。「すべての事」は、わたしたちの日常生活における、またわたしたちの働きにおける、大小すべての事を意味します——エペソ 4:15. ゼカリヤ 4:10 :
- A. からだの有機的な建造はからだの成長であり、からだの成長は、すべての肢体の中で神が増し加わり、命としての神が増加することです——エペソ 2:21-22. 4:16. コロサイ 2:19。
- B. 成長する肢体は建造する肢体です。命において成長することは、わたしたちの中に神をさらに多く持つことです。わたしたちの問題は、わたしたちが神に欠けていることです——エペソ 4:16. 参照、ヨブ 1:1-5. 42:1-6。
- C. わたしたちはかしらの中へと成長し込むために、神聖な愛の要素と範囲の中で、真実を固く保たなければなりません。エペソ第 4 章 15 節の「真実」は、真であるも

のを意味します——ローマ 3:4 :

1. わたしたちは神の永遠のエコノミーを固く保つ必要があります—— I テモテ 1:3-4 :
  - a. これは神の中に隠された奥義のエコノミーです——エペソ 3:9。
  - b. このエコノミーは、キリストの有機的なからだとしての召会を持ち、新エルサレムにおいて究極的に完成し、キリストを神の多種多様な知恵として現すことです—— 10-11 節. 1:22-23. I コリント 1:30。
2. わたしたちはすべてを含むキリストを固く保つ必要があります——ヨハネ 14:6. エペソ 1:23 :
  - a. 彼の度量は測ることができません—— 3:18。
  - b. 彼の豊富は計り知れません—— 8 節。
  - c. 彼の愛は知識を超越しています—— 19 節。
3. わたしたちはキリストのからだとしての召会を固く保つ必要があります—— I テモテ 3:15 :
  - a. キリストのからだは、団体のキリストです——使徒 9:4. I コリント 12:12。
  - b. キリストのからだは、キリストの豊満、表現、また神の豊満、表現です——エペソ 1:23. 3:19。
- D. わたしたちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストの頭首権の権威を承認することを通してです——コロサイ 2:19. 参照、ヨシュア 9:14. I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-27. 23:10-11 :
  1. キリストはあらゆる人のかしらです—— I コリント 11:3。
  2. キリストは召会のかしらです——エペソ 5:23。
  3. キリストは万物のかしらです—— 1:22, 10。
- E. キリストがかしらにつり上げることに、信者たちがあずかるのは、召会生活の中で進んでかしらにつり上げられることによります。すなわち、命において成長することにより、キリストの光の下で生きることによります——ヨハネ 1:4. 8:12. エペソ 4:15-16. 5:8-9. 啓 21:23-25。
- F. わたしたちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストにわたしたちの存在の内側の各部分の中で増し加わって、成長していただくことによります :
  1. わたしたちは命において成長するために、わたしたちの霊に注意を払わなければなりません (ローマ 8:6)。わたしたちは自分のミングリングされた霊を知らなければならず、用いなければならず、活用しなければなりません (I テモテ 4:6-8) :
    - a. エペソ第 1 章 17 節が見せているのは、わたしたちが知恵と啓示の霊を求めて祈って、キリストと神のエコノミーを十分に認識する必要があるということです。
    - b. エペソ第 2 章 22 節が言っているのは、すべての信者が共に建造されて、霊の中にある神の住まいへと至るということです。
    - c. エペソ第 3 章 5 節が言っているのは、キリストの奥義が彼の聖なる使徒たちと預言者たちに、霊の中で啓示されているということです。
    - d. エペソ第 3 章 16 節が見せているのは、わたしたちが祈って内なる人の中へと

増強される必要があるということです。内なる人はわたしたちの再生された霊であり、神の命をその命としています。

- e. エペソ第 4 章 23 節がわたしたちに告げているのは、わたしたちの思いの霊の中で新しくされるということです。
  - f. エペソ第 5 章 18 節がわたしたちに告げているのは、霊の中で満たされるということです。
  - g. エペソ第 6 章 18 節がわたしたちに告げているのは、どんな時にも霊の中で祈るということです。
2. わたしたちは命において成長するために、聖なる言葉の乳と食物の養いを得なければなりません。聖なる言葉はキリストの具体化であり、キリストは神の生ける言葉です—— I ペテロ 2:2. ヘブル 5:13-14。

### Ⅲ. わたしたちが命においてかしらの中へと成長し込むとき、わたしたちの機能がかしらから出て来てからだを建造します——エペソ 4:16. コロサイ 2:19 :

A. わたしたちは、キリストにすべての事でかしらになっていただくとき、またすべての事で彼の中へと成長し込むとき、彼の命の豊富をもって供給され、彼から受けたものをからだの他の肢体の中へと注入します—— I コリント 14:4 後半. ヨハネ 7:37-39 :

- 1. キリストのからだを建造することは、命を与える霊としてのキリストを聖徒たちの中へと供給し、彼らをキリストの中へと成長し込ませることです—— II コリント 3:6, 8。
- 2. わたしたちは聖徒たちを助けて、主を享受し、主によって養われることを学ばせなければなりません。それは、彼らが成長することができるためです——ピリピ 1:25. II コリント 1:24。

B. キリストの頭首権の下で、からだ全体はキリストのからだを成長させます——エペソ 4:15-16 :

- 1. この成長は、その豊富な供給のあらゆる節々（キリストのからだにおけるすべての特別な賜物）を通してです—— 11-12 節。
- 2. この成長は、それぞれの部分（キリストのからだのあらゆる肢体）の度量に応じた活動を通してです—— 7-8 節。

C. キリストの頭首権の下でキリストのからだを建造することは、愛の中で、また愛によってです :

- 1. キリストのからだを建造するために、わたしたちが何になろうとも、また何を行なおうとも、愛が最も卓越した道です。ただ愛だけが、わたしたちを主との正しい関係の中に保つことができます—— I コリント 12:31 後半— 13:13。
- 2. エペソ人の手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質としての愛の中へともたらしめて（ I ヨハネ 4:8, 16）、わたしたちが愛としての神を享受し、神聖な愛の甘さの中で彼の臨在を享受し、それによってキリストが愛したように、他の人を愛することです（エペソ 5:25. 6:24. 1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2）。
- 3. 「知識は人を思い上がらせませんが、愛は人を建造します」（ I コリント 8:1 後半）。これが指しているのは、キリストの頭首権の下でキリストの団体のからだを建造

するということです。

- D. 命において成長することは、かしらであるキリストの中へと成長し込むことですが、キリストのからだの中で活動することは、彼から出て来る活動を持つことです。まず、わたしたちはかしらの中へと成長し込み、次に、かしらからであるものを持って、からだを建造します。これが、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げるといふ、神の大いなる高貴なみこころにあずかることです——エペソ 4:15-16。